

第33回 総理大臣杯
全日本大学サッカートーナメント
Game Preview 1回戦

2009年8月1日(土)
発行: 関西学生サッカー連盟



**PRIME
MINISTER
CUP**

第32回総理大臣杯では関西決戦を制した大体大が優勝を決めた。
あれから1年・・・また関西に熱い夏がやってきた！！



Photo:第32回 総理大臣杯 決勝より
撮影・フリーライター 久住 真穂

第33回 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントがいよいよ開幕！
今年もここ関西に全国各地域から勝ちあがった強豪校が集まり、夏の大学日本一を懸け対戦します。
栄光を手にするのはどの大学か！？ 熱く繰り広げられる第33回 総理大臣杯から目が離せない！

2009年度 第33回 総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメント

【会場】

大阪長居スタジアム・大阪長居第2陸上競技場・鶴見緑地球技場
神戸総合運動公園ユニバー記念競技場・三木総合防災公園陸上競技場

1・2回戦は無料開催
準決勝以降の前売券はチケットぴあで発売



※何らかの理由により、決勝戦が8月7日(金)に行えなかった場合、8月8日(土)に同会場、同時間で行う予定です。

福山大学(中国) vs 大阪学院大学(関西2)

《第1試合》 15:30 Kick off @鶴見緑地競技場

大院大は、大胆なコンバートが功を奏して4年ぶりの出場を勝ち取った。身長180cmのFW⑨岡村和哉(4年)は昨秋までセンターバック。当たり負けしない体の強さとボールさばきのうまさを買われて前線に起用され、関西選手権では準決勝の同大戦でハットトリックを決めるなど、準優勝の立役者となった。手薄になったセンターバックには本来サイドバックの④吉井直人(4年)が入ってカバー。関西学生リーグは前期7位だが、安定した守りからカウンター攻撃の形を持っているのは強みだ。

福山大もチームカラーは似ている。中国大学選手権の4試合はすべて無失点の堅守。主将のセンターバック⑤岡本彰泰(4年)は1対1に強く、攻撃面では、身長166cmと小柄ながらスピード豊かなFW⑩佐古田翔平(4年)が、高い決定力を誇る。総理大臣杯は8年ぶりだが、昨年は天皇杯にも出場。J1広島、J2岡山との練習試合なども通じて、強者との戦い方は心得ている。吉田卓史監督は「中国地区ではボールをじっくりまわしているが全国では難しい。縦に素早い攻撃も必要」と、状況に応じた戦いをにらむ。

(読売新聞大阪本社 運動部 山口 博康)

東海大学(関東1) vs 高知大学(四国)

《第2試合》 18:00 Kick off @鶴見緑地競技場

昨年3位と躍進した高知大。準決勝では、優勝した大体大とPK戦にもつれ込む死闘を演じた。今大会は、さらに上を狙う。守備陣は、特別指定選手としてJ2愛媛の受け入れが決まった左サイドバック④中野圭(4年)、前回も出場したDF③實藤友紀(4年)、GK①片山裕登(4年)らに、作陽高出身のDF 22 山部晃(1年)を加えて安定。ボランチにも技術の高い⑩竹内宏次郎(1年)が入り、戦力は整いつつある。

対する東海大は、2000年に2度目の優勝を飾って以来の出場。2006年には13年ぶりに1部昇格を果たしたが、降格と昇格を繰り返す状態が続いている。今季は1部で迎え、関東大学リーグ前期11位。今川正浩監督が「ようやく1部のスピードに慣れてきたところ」という状態だ。チームの立て直しに向け、昨季、元日本代表の山口素弘コーチが就任。週3、4回の指導で、日本トップレベルの技術と経験を選手に伝えており、選手の意識にも変化が現れ始めているという。昨秋、左アキレス腱を痛めて戦列を離れていた主将のGK①石井健太(4年)が復帰し、結束力も高まっている。今川監督は「過去の実績は関係ない。1試合でも多く戦い、飛躍のきっかけにしたい」と位置づけて臨む。

(読売新聞大阪本社 運動部 山口 博康)

福岡大学(九州) vs 同志社大学(関西3)

《第1試合》 15:30 Kick off @神戸総合運動公園ユニバー記念競技場

両チームとも将来を囑望される逸材を擁し、注目度の高い一戦だ。

福岡大のFW⑩永井謙右(3年)はU-20(20歳以下)日本代表で、国際舞台で何度もハットトリックを決めている点取り屋。銅メダルを獲得した今夏のユニバーシアード・ベオグラード大会では通算7点で得点王にも輝いた。50m走で6秒切る俊足を誇り、MF⑭藤田直之(4年)のスルーパスから得点を量産する。GK①河田晃兵(4年)もユニバーシアード日本代表で、永井とDF⑤宮路洋輔(4年)の3人がJリーグでもプレーできる特別指定選手。4年生には2006年準優勝メンバーも多く、乾真寛監督は「今年はチームの完成年。優勝を狙う」と自信を見せる。

13年ぶりの出場となった同大は、特別指定選手としてJ1川崎でもプレーするMF⑦楠神順平(4年)が大黒柱。2005年度の全国高校選手権を制した野洲高のメンバーで、パスをつなぐチームの中で、切れ味鋭いドリブル突破が異彩を放つ。プロのスピードにもまれ、プレーの幅も広がったという。もう一人のキーマンMF⑧荒堀謙次(3年)も野洲高出身。豊富な運動量でピンチの芽を摘み、強烈なミドルシュートで攻撃に厚みを加える。タレントの豊富さでは福岡大に分があるが、望月慎之監督は「サッカーはチームですもの」と組織力を強調し、関西学生リーグ前期2位の意地をかけて戦う。

(読売新聞大阪運動部 山口 博康)

札幌大学(北海道) vs 法政大学(関東2)

《第2試合》 18:00 Kick off @神戸総合運動公園ユニバー記念競技場

第1回大会をはじめ、3度の優勝を誇る法政大が復活を期す。

中盤をコンパクトに保ち、厳しいプレスをかける守備が持ち味だが、関東大学リーグ前期の成績は10位と低迷。DF⑤堀越寛人(4年)やボランチのMF⑦富井英司(4年)を故障で欠き、11試合で最多25失点と守りが崩れた。しかし、2人が回復し、さらに2年生でユニバーシアード日本代表に選ばれた経験を持つ身長188cm長身GK①若田和樹(4年)も、ひざの故障から復帰。関東代表決定戦では、2試合無失点と守りの安定感を取り戻した。FW⑩阿部拓馬(4年)のドリブル突破は鋭く、カウンターで勝機を切り開くつもりだ。

札幌大は今季から、J2札幌などでDFとして活躍した古川毅コーチが就任。実質的に指揮を執っている。組織的な守備を磨き、北海道大会は4試合で2失点。攻撃面ではワンタッチ、ツータッチのプレーを増やし、計18得点を奪う強さを見せた。身長178cmのFW⑩畠山直人(4年)が前線の起点となり、俊足の両サイドハーフ⑩清原圭介(3年)、⑮渡部誠弘(4年)が縦へ切り込む攻めが得点パターン。6年ぶりの総理大臣杯だが、大学選手権には5年連続で出場中。全国の舞台でも気後れはない。

(読売新聞大阪本社 運動部 山口 博康)

第33回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント1回戦 2009年8月1日(土) GAME PREVIEW



東海学園大学(東海2) vs 国士舘大学(関東4)

《第1試合》 15:30 Kick off @大阪長居第2陸上競技場

過去2度優勝の強豪、国士舘大に初出場の新鋭、東海学園大が挑む。東海学園大は、東海大学選手権決勝で静岡産業大に敗れはしたが、3-5と壮絶な点の奪い合いを演じるなど、攻撃サッカーが持ち味。今大会でも⑨松元亮仁(4年)、⑧樋木達紀(4年)の2トップに両サイドから素早いボール供給が出来れば得点機になるはずだ。6月に学内の新型インフルエンザ騒動で2週間の活動休止があり、調整に不安は残るが、「名門に胸を借りる形になるが、戦うからには勝ちに行く」と安原成泰監督。先制して主導権を握りたい。

対する国士舘大は中盤に人材がそろそろ。4-4-2が基本布陣。⑩柏好文(4年)、⑪伊東俊(4年)の両MFは全日本大学選抜の経験もあり、右サイドに入る柏のドリブル突破に期待したい。関東大学リーグ前期は主力に故障者が出て中位に甘んじたが、FW⑨高橋大(4年)も復帰し戦力は整った。細田三三監督は「高い位置からプレスをかけ、積極的にゴールを狙う」と話す。昨年は優勝した大阪体育大に準々決勝で延長戦の末に惜敗。その悔しさを知る選手も多く、今年にける思いは強い。互いにアグレッシブなチーム同士、ゴールシーンの応酬になる可能性も十分だ。

(読売新聞大阪本社 運動部 藤田 真則)

関西大学(関西1) vs 筑波大学(関東5)

《第2試合》 18:00 Kick off @大阪長居第2陸上競技場

「人もボールも動くサッカー」で3年ぶりに関西学生選手権を制した関西大。攻撃ではダイレクトパスをつなぎ、守っては中盤をコンパクトに保って数的有利をつくり、ボールを奪う。島岡健太監督は「個人の能力だけに頼るサッカーはしない」と話し、組織力を重視する。とはいえ個々の技術も高く、左足から正確なフィードを繰り出す左サイドバック②田中雄大(3年)はユニバーシアード日本代表。関西学生リーグ得点ランキングトップのFW⑩金園英学(3年)は一人でもDFを突破可能だ。

能力では筑波大も負けていない。元日本代表の風間八宏監督の下、昨年の全日本大学選手権で準優勝。とにかくボールを持てばゴールに向かう攻撃サッカーが魅力だ。「ウチに決まったスタイルはない。パスサッカーでもないし、カウンター狙いでもない」と中山雅雄副監督。だからこそ個人の技術、判断が重要になるが、1対1に自信を持つDF③作田裕次(4年)、全日本大学選抜候補で1.5列目での起用が予想されるFW⑩小澤司(3年)らタレントも豊富だけ楽しみだ。

ともに優勝経験のある両校の対戦は1回戦屈指の好カード。組織プレー対個人技の戦いか、それとも違った展開となるのか、目が離せない。

(読売新聞大阪本社 運動部 藤田 真則)

静岡産業大学(東海1) vs 北陸大学(北信越)

《第1試合》 15:30 Kick off @三木総合防災公園陸上競技場

一昨年の準優勝チームで4年連続6度目の出場となる静岡産業大に、サッカー部の強化を始めて2年目、全国大会初出場切符をつかんだ北陸大が挑む。

元日本代表DFの越田剛史監督を迎え強化に乗り出した北陸大は、登録メンバー中3年生が一人だけで、残りは1、2年生という若いチーム。北信越大会は、準々決勝で昨季リーグ1位の新潟県高専大を破って勢いに乗り、富山大をPK戦で、新潟大を延長の末に退けて代表の座をつかんだ。「今の2年生が4年生になるころには全国大会に連れて行かばいと思っていた。2年早く実現した」と越田監督。布陣はオールドソックスな4-4-2。CBは1年生ながら開幕スタメンの座をつかんだ⑩沖田良真と、④坂口翔太(2年)のコンビで最少失点に抑えてきた。2トップにはチームのダイナモ、⑩太田達也(2年)とバチ力のある25 石原卓(1年)が座り、若さを武器としたチャレンジングサッカーが合言葉だ。

対する静岡産業大は、「昨年より個の能力が高い。チームでボールを奪い攻撃につなげたい」(成嶋徹監督)と組織力をキーワードに挙げる。「今回は関東の上位校が出場している。ナンバーワンになるチャンス」と、3-5-2、4-4-2の布陣を相手によって使い分けながら決勝進出をもくろむ。守りの中心は2年生の時から実戦経験があるGK①村山智彦(4年)。さらに主将の③多々良敦斗(4年)が最終ラインを統率し、チーム得点王のFW⑩片山勇佑(2年)が、攻撃のカギをにぎる。初戦を前に成嶋監督は「しっかりとハードワークしてくるチーム」と初出場相手にも気を引き締める。北陸大の強化がスタートした昨春、静岡産業大に胸を借りたことがある。「0-15で敗れた。日本一になるためには、このレベルにならないとダメなんだ」と思われ知らされた」と越田監督。全国の舞台で「恩返し」が出来るか。

(読売新聞大阪本社 運動部 河村 真司)

東北学院大学(東北) vs 駒澤大学(関東3)

《第2試合》 18:00 Kick off @三木総合防災公園陸上競技場

過去5度優勝の駒澤大はユニバーシアード日本代表の3選手が軸。GK①岡大生(3年)、DF④中山友規(4年)が守備を引き締め、183cmのFW③三島康平(4年)が前線で体を張る。ほかにもMF23 湯澤洋介(1年)が楽みな存在。巧みなドリブルでめきめき頭角を現している。秋田浩一監督は「個々の能力は高くない」と控えめだが、「連続、連動、継続」を掲げ、粘り強いチームに仕上がった。

昨年は1回戦で敗れた東北学院大は、まず初戦突破を目指す。布陣は4-4-2が基本で、全員攻撃、全員守備を磨いてきた。攻撃のキーマンは左サイドのMF⑦垣内洋平(4年)。突破力が光り、強烈なシュートもある。守備の中心のDF⑤間杉俊輔(4年)は冷静なポジショニングが持ち味。足の止まった前回の反省を生かし、チームは暑さ対策の練習を取り入れるなど、着々と準備を進める。

駒澤大がボールを支配し、東北学院大がカウンターを狙う展開が予想される。駒澤大の秋田監督は「相手は技術が高い」と警戒。一方、東北学院大の松原悟監督は「胸を借りるつもりだが、それほど差はない」と意気込む。

(読売新聞大阪本社 運動部 平野 和彦)